

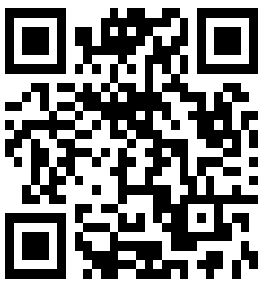


国会見学お待ちしております！

11:30 国会集合 昼食自己負担  
予約制となっていますので、ご希望の方は  
下記までご連絡ください。  
石井苗子国会事務所 03-6550-1115

参議院議員 全国比例

みつこ  
石井苗子



国会事務所

〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 1115 号室

メール mitsuko\_ishii@sangiin.go.jp

ホームページ http://ishiimitsuko.com/



## 予算委員会総括質疑

一〇月一六日、総理はじめ全閣僚出席のもと、予算委員会総括質疑が行われました。石井議員は、保育所の規制緩和、がん検診、日米貿易協定

について質問しました。

### ●保育所の規制緩和●

日本維新の会は、中央省庁の握る過度な規制、いわゆる岩盤規制の緩和

を党の重要政策としています。政務調査会でリストアップした十大岩盤規制というリストもあります。

保育施設についても、厚生労働省が定めている強固な規制があります。この規制は、保育施設を設置するときの人員や施設などの最低基準を定めているものですが、地方の実情に合わせた柔軟な運用を難しくしている面があります。結果として、なかなか保育所を増やすことができず、待機児童問題をかかえる各自治体は苦勞しています。

松井一郎・大阪市長は、厚労省の基準に合った保育士が足りない、保育士の資格がなくても講習を受けた人を准保育士にして、人数を充足させる制度を提唱しています。

●地方分権で解決を●  
そこで、安倍総理に「最低基準を定めることが自治体の自由度を奪っているのではないか、これが待機児童問題の解決を遅らせているのではない

か」と質問したところ、

「保育所の設置基準については、保育の質の確保、向上を図ることも重要な課題であり、最低限遵守すべき基準を設けた上で、地域の実情を踏まえた柔軟な取扱いが可能となるように努めている」と答弁がありました。

実際には、柔軟な取り扱いがされていないから自治体は苦勞しているのですが、総理にはなかなか分からないようです。

中央政府に地方の苦勞が伝わらないからこそ、地方に権限を移譲する地方分権によって、地方の実情に合わせた解決が可能になるのだと思われ

## 十大岩盤規制

- ◆農地の株式会社所有
- ◆ライドシェア解禁
- ◆電波オークション
- ◆NHK分割民営化
- ◆新聞の資本規制
- ◆学校(義務教育)での画一教育改革
- ◆医学部・歯学部・獣医学部の新設など
- ◆解雇法制
- ◆オンライン診療の本格解禁
- ◆保育・介護施設の各種基準の地方分権
- ◆解雇法制
- ◆外国人医師・看護師などの受入れ
- ◆政省令の条例による上書き

### ●がん検診●

次に、自治体が住民健診で行っているがん検診について質問しました。

現在、国民の二人に一人ががんに罹り、三人に一人ががんで亡くなっています。効果的ながん検診は、早期発見を可能にし、国民の寿命を延ばしていくことができます。同時に、国民医療費が四十三兆円に上っているなかで、医療費の削減効果もあります。しかしながら、膨大な公費が費やされているにもかかわらず、費用対効果の検証がなされていないという重大な問題が明らかになっています。

(裏面へ)

がん検診—対策型がん検診\*

がん種	推奨されている検方法	対象年齢と適切な受診間隔	現時点では推奨されないもの
胃	胃X線または内視鏡検査	50歳以上の男女 2年に1回	血液検査
子宮頸部	細胞診	20歳以上の女性 2年に1回	HPV検査
乳房	マンモグラフィ(乳房X線)	40歳以上の女性 2年に1回	マンモとエコー(超音波)の併用
肺	胸部X線と喀痰検査(喫煙者のみ)の併用	40歳以上の男女 1年に1回	CT検査
大腸	便潜血検査	40歳以上の男女 1年に1回	内視鏡検査 CT検査

住民健診には年間約一千三百億円が費やされていますが、これだけの費用を投入してどれくらい早期発見の効果があろうでしょうか。厚生労働大臣にその分析をしているか聞いたところ、「これまでも必ずしも十分な分析をしていないので、更なる

分析、評価をしていく必要がある」という答弁がありました。厚生労働省はエビデンスに基づいた合理的な政策決定をしていないということですが、国民の健康にかかわる重要な問題なので、石井議員は今後も追及していきます。

▼ 活動報告 ▼

10月1日、党で福島第一原発を視察



農水委員会で豚コレラについて質疑

岐阜県で昨年九月に発生した豚コレラ(CSF)は、山梨県、埼玉県にまで広がる可能性があります。また、アフリカ豚コレラ(ASF)も、中国や韓国でも発生が認められ、まだ日本には上陸していないものの危険な状態になっています。

一月二一日の農林水産委員会では、この問題を中心に質疑が行われました。石井議員は「CSFのワクチンが接種された

豚肉が市場に出回るに際して、風評被害が起こらないように科学的に伝えていくリスクコミュニケーションが必要だ」と訴えました。農水大臣からは「メディア対策をやっているが、テレビなどで広報して消費者が強い関心を持つと、生産者にはかえってマイナスになりかねない」と答弁がありました。行政の広報の在り方も、根本的に再検討するときに来ています。



**石井苗子の国会タックル**  
毎週月曜 20時より生中継。  
毎回多彩なゲストを招いて徹底討論しています。  
ご視聴よろしくお祈いします。



<https://www.facebook.com/141mitsuko>  
**石井苗子のフェイスブックマラソン**



[https://twitter.com/ishii\\_ishin](https://twitter.com/ishii_ishin)  
**リアルタイムのツイート**  
**ショートムービー**  
ぜひ、フォローしてください。

